

2022 年度の取組結果及び 2023 年度の取組内容について

1 取組内容

取組内容	2022 年度取組	2023 年度取組	取組主体	協力主体
(1) 渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会の開催				
	4 回実施（うち 2 回は書面開催）	適宜実施予定	構成員全員	
(2) 捕獲の取組				
ア 許可捕獲等による捕獲 ※括弧内数字は指定管理鳥獣捕獲等事業（以下「指定管理」という。）を示す。	<捕獲計画数> 田原市及び豊橋市 830 頭 ・田原市 480 頭（うち50頭*） ・豊橋市 350 頭 <捕獲実績> 田原市及び豊橋市 395 頭 ・田原市 199 頭（うち47頭*） ・豊橋市 196 頭	<捕獲計画数> 田原市及び豊橋市 810 頭 ・田原市 460 頭（うち50頭*） ・豊橋市 350 頭	愛知県、田原市、豊橋市 狩猟連合田原、狩猟連合豊橋	
イ 鳥獣被害防止総合対策事業費補助金の上乗せ	成獣捕獲推進のため、県の上乗せ額を成獣（13,000 円/頭）と幼獣（6,000 円/頭）に変更	同左	愛知県	田原市、豊橋市

取組内容	2022 年度取組	2023 年度取組	取組主体	協力主体
ウ 県による捕獲業務等委託の実施				
(ア) 指定管理	田原市の大山山塊を中心にわな 猟と銃猟を実施	田原市の大山山塊を中心にわな 猟と銃猟を実施 <u>2022 年度に効果的捕獲促進事業 で検討した移動式簡易囲いわな を導入</u>	愛知県	田原市、 狩猟連合田原
(イ) 効果的捕獲促 進事業	低密度に生息する野生イノシシ の効果的捕獲方法の検討及び試 行を実施 ＜検討・試行した手法＞ 移動式簡易囲いわな、簡易柵を 用いた追込猟	低密度に生息する野生イノシシ の効果的捕獲方法の検討 <u>(農業総合試験場による新手法 を検討予定)</u>	愛知県	
エ くくりわなの輪の 径の規制緩和	渥美半島（田原市及び豊橋市の南部地域）において、くくりわなの 輪の径を 12cm 以下とする規定を緩和し、15cm 以下の径の使用を許 可		愛知県、田原市、 豊橋市	
オ 捕獲強化のための 資材提供	地元狩猟者団体（狩猟連合田 原）への捕獲支援として誘引餌 （米ぬか）を約 10 トン提供	誘引餌（米ぬか）等を提供	愛知県	田原市

取組内容	2022 年度取組	2023 年度取組	取組主体	協力主体
(3) 生息状況調査				
	センサーカメラによる調査や痕跡調査等による生息頭数の推計、根絶に向けた実現可能性検討を実施		愛知県、田原市	
(4) 移動防止柵の維持管理				
	野生イノシシの地域外からの進入経路の遮断と、地域内での移動を制限することで効率的に捕獲することを目的として設置した移動防止柵の機能を維持するため、点検・修繕を実施		愛知県、田原市、豊橋市	
(5) 捕獲の担い手確保・育成のための取組（全県）				
ア 捕獲従事者（狩猟免許所有者）の確保	セミナーを2回実施	セミナー、啓発等を実施予定	愛知県	
イ 認定鳥獣捕獲等事業者の育成	県内の認定鳥獣捕獲事業者の捕獲従事者を対象とした育成事業を実施（当年度から開始） ・捕獲従事者向け1回 ・管理者向け1回	県内の認定鳥獣捕獲事業者の捕獲従事者を対象とした育成事業を実施 ・捕獲従事者向け <u>2</u> 回 ・管理者向け1回 ※ <u>捕獲従事者として登録予定の従事者等も参加可</u>		

取組内容	2022 年度取組	2023 年度取組	取組主体	協力主体
(6) その他の取組				
ア 経口ワクチンの散布 (全県)	豚熱の拡散を防止するため、経口 (餌) ワクチンを散布継続		愛知県	狩猟連合田原、 狩猟連合豊橋
イ 地元市の取組	市独自の報奨金、捕獲器具貸与等による捕獲強化、くくりわなの径の規制緩和、狩猟免許取得補助による捕獲者の確保、県と共同で移動防止柵維持管理等を継続		田原市、豊橋市	
ウ 各種情報共有	イノシシの痕跡や農作物被害の状況等、各主体が保有する情報の共有		構成員全員	

2 現状の課題と対応案

- 生息状況調査の結果、渥美半島における野生イノシシの生息頭数（推定値）は減少傾向にあるが、2022年度の捕獲頭数は前年度より増加しており、引き続き、捕獲圧の強化が必要。

- このため、以下の対応が必要である。
 - ・捕獲従事者の捕獲意欲維持のため、誘引餌の提供や捕獲助成金を継続するほか、捕獲従事者に対して野生イノシシの生息状況調査の結果や捕獲情報等の情報共有を行う。
 - ・有害捕獲のわなの稼働状況などを、市等を通じて集計し、捕獲の空白地帯の解消に向け、県による指定管理鳥獣捕獲等事業等を実施する。
 - ・捕獲の担い手の確保・育成に向け、狩猟免許取得助成補助や研修会等の支援を行う。
 - ・生息状況調査について、最新の知見等を考慮し、手法、指標、評価方法を検討する。

- 6月2日の豪雨の影響により、表浜樹林帯に設置した移動防止柵が計63m破損。野生イノシシの移動を制限するよう、早期の修繕が必要。

- 地元狩猟団体（狩猟連合田原）の捕獲支援のため提供している誘引餌（米ぬか）について、昨年度に引き続き高騰が続いており、今後資材調達に支障をきたす可能性がある。このため、資材提供方法の改善及び代替資材への転換等の検討を行う。

- なお、県内において、野生イノシシの豚熱感染が継続的に確認されていることから、関係者においては、引き続き防疫対策の徹底をお願いする。